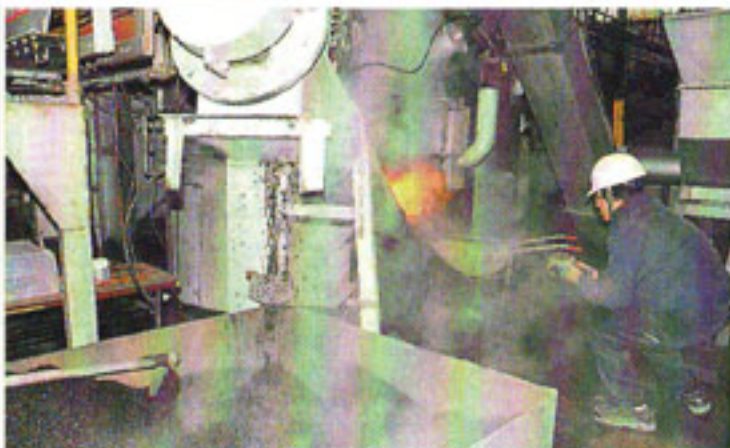


## 石綿廃棄物

## 低温で安全な溶融めざす

最上の産廃  
処理施設 実証実験スタート

アスベスト(石綿)廃棄物を、より低温・低コストで安全に溶融するための実証実験が二十四日、最上町の産業廃棄物処理施設「最上クリーンセンター」で始まった。東北大多元物質科学研究所の葛西栄輝教授の研究チームが取り組むプロジェクトの一環。既存の溶融炉を利用し、特殊な専門知識を持たない作業者にも処理できるように二〇〇八年度までにマニュアルを作成する。



アスベストをより低温で安全に溶融するための実証実験が行われている溶融炉—最上クリーンセンター

アスベスト廃棄物を無害化するには、一五〇〇度以上の高温で溶かす方法がある。しかし、燃料費がかさむことなどから〇五年度までに各自治体の許可を受けた処理施設は全国でわずか十五カ所。東北では最上クリーンセンターを含めて二カ所しかなく、大半が埋め立て処理されているという。研究では、身近にある山砂や粘土を溶剤として加えることで現在より低い一四〇〇度での溶融を目標にしている。炉の寿命が長くなる上、塩化物を利用しないためダイオキシンなどの有害物質が排出されないという。

課題は、アスベストにはモルタルなどの建築廃材が混ざることが多いため、融点にはらつきがあり、安定的に溶融することが難しいこと。今回は、

混合物の割合に対する適切な溶剤量なども分析し、より効率的な処理方法を探る。

研究に利用するのは、同センター内の焼却灰を再資源化するための溶融炉。溶剤の一つとして焼却灰をアスベストに混ぜ、処理後は路盤材などの建設材料として再利用する。研究期間は環境省の補助を受け、〇八年度までの予定で行う。葛西教授は「廃棄物の量はさらに増えることが予想される。実用化に

## 日本海文学大賞の小説部門

## 有松さん(山形市)佳作に

第十七回日本海文学大賞の入賞者が二十四日決



まり、山形市の有松周(本名紀子)さん(37)『写真』の一番人のいる町』が小説部門の佳作に入った。それぞれ家庭の事情に翻弄(ほんろう)されながら成長していく中学三年生の拓



向け、的確なマニュアルを作成させたい」としている。

冬道の